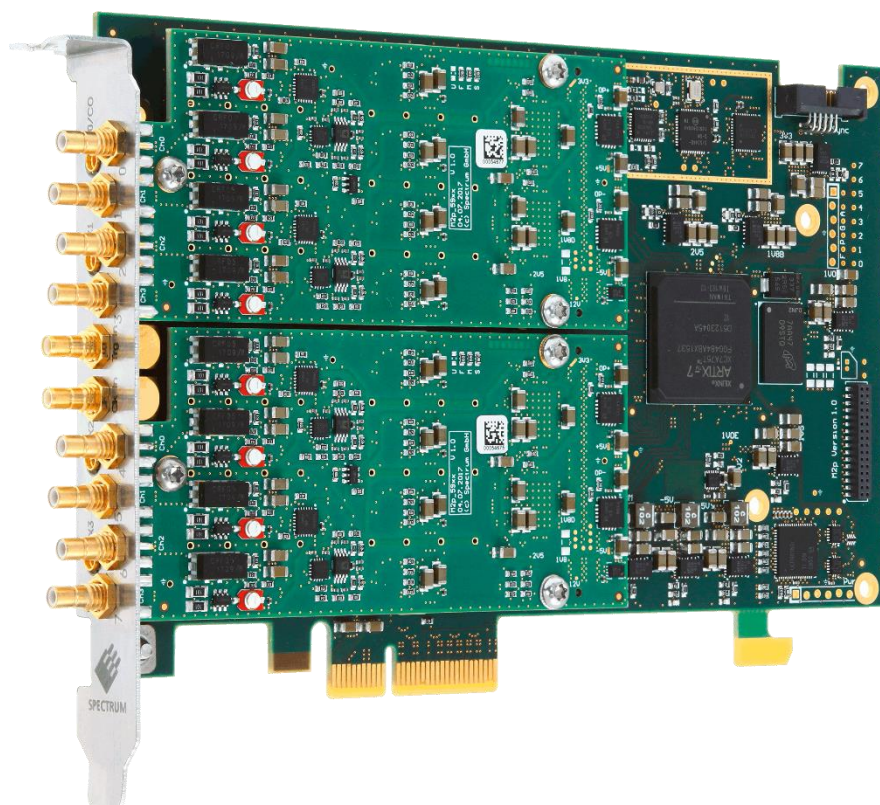


次世代の 16 ビットデジタルザ (より小さく、より速く、より良く) を発表

SPECTRUM 社は、新しいデジタルザカードシリーズの最初の製品を発表しました。

それは、翌年からの全ての製品の PCIe ベースになる新しいプラットフォーム M2p と新しい 59xx モジュールです。それは多くのバリエーションを提供します。

M2p プラットフォームおよび 59xx モジュールは、速度とチャンネルに関して多くのオプションを備えた 13 種類の新しいデジタルザカードを提供します。



SPECTRUM 社の CTO である Oliver Rovini 氏は、

「これらの製品は、周波数 1MHz から 40MHz までの帯域をカバーする新しい mid-range のデジタルザシリーズの中心になります。その範囲内では、新しいユニットは、私たちの既存客に多くの技術的な利点と容易なアップグレード方法により、スムーズに私たちの現在の 12、14 および 16 ビットのモデルをすべて置き換える事ができます。

その結果、私たちは、超音波、レーザー、ライダー、レーダー、自動車、大規模物理実験にこれらの新製品を応用できます。」と述べています。

13 種類のモデル

M2p.59xx シリーズは、3 種類のサンプリングスピード 20 MS/s、40 MS/s、80 MS/s を持ち、

1枚のカード当たり1~8チャンネルを構成できます。SPECTRUMのユニークなモジュール設計哲学に基づいて提供される13種類のモデルは、顧客の要求仕様に完全にマッチしています。

より多くのモデルが2018年にリリースされる予定です。

製品のサイズはデザインチームによって半分のPCIeカードサイズになりましたが、今までの製品よりも多くの特徴を提供しています。各チャンネルは、それぞれ独立したADCを持ち、±200 mVと±10 Vのレンジで、個々にプログラム可能な入力アンプを持っています。また、入力オフセットの設定も個々に可能で、入力抵抗も50Ω、1MΩの選択が可能です。製品は、8single-end、4differentialの2タイプがあります。

小さくて高速な16ビットデジタル

167mmの短縮されたカード長により、16ビットのデジタルが以前よりはるかに小さなPCシステムに装着する事を可能にします。コンパクトなOEMには申し分ありません。

PCIe x4レーンインターフェースは、ストリーミング速度を600MB/s以上に、或いは、4チャンネル75MS/s以上の連続的なストリーミング速度などのように、速度を劇的に増加させます。

それは、1GByteの内蔵メモリと連続的なデータ保存あるいは高速なオンライン計算を必要とするようなアプリケーションへの適用を可能にします。

複合記録、ゲート制御されたサンプリングあるいはABAのような知的な収集モードなどのほぼすべてのアプリケーションの要求に対応できます。

1つのシステムで、スターハブを使用して16枚までのカードまで同期することができます。

それは、1台のシャーシに、128チャンネルまでのシステムを作成することを意味します。

同期のための外部クロック、トリガー入力、トリガー出力は、標準装備されています。

さらに、フレキシビリティを持たせるために、正面のプレート上の4つの個々にプログラム可能なコネクタが利用可能です。これらは、追加のトリガー入力、状態表示出力、デジタル入力ライン、非同期入出力あるいはリファレンスクロック入力を提供します。

広範囲なソフトウェア支援

新しいカードは、今までのカードと同じように、1つの共通のソフトウェアインターフェースでPCIe、PXIeあるいはイーサネット/LXI製品を組み合わせます。

WindowsとLinuxに基づいた完全なSDKは、製品と同時に出荷されます。

市場に出ているほぼすべてのプログラミング言語のためのドライバおよびプログラム例は、顧客の好ましいプログラミングインターフェースの決定に有用です。

現在のSDKはC、C++、C#、Delphi、VB.NET、J#、Python、Java、LabVIEW、MATLABおよびLabWindows/CVIを含んでいます。